

●堺に広がるSDGsアクション「余り紙で創る 住み続けたいまち」



SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、地球に住み続けるための世界共通の目標のことです。この目標に取り組む「さかいSDGs推進プラットフォーム」の会員の企業・団体をシリーズで紹介します。今回は会員同士がつながり、共に新たな価値を生み出した取組を紹介します。☎SDGs推進プラットフォーム専用ダイヤル(☎340-2179)

4 質の高い教育をみんなに



12 つくる責任 つかう責任



15 陸の豊かさも守ろう



17 パートナリプで目標を達成しよう



株式会社羽車

製造過程で発生する余り紙を有効活用したい
子どもたちに自由な発想で使ってもらいたい



登美丘西こども園

子どもたちの将来のために皆が幸せに
住み続けることができるよう一緒に考えたい

株式会社羽車は、森林認証紙や再生紙などの素材を使い、自社工場の電力も100%再生可能エネルギーに転換し、環境に配慮した紙製品を作っています。こども園では「ものを捨てる前に、もったいなくないかな?まだ使えるかな?とってほしい」と説明後、余り紙を提供されました。子どもたちが作っている姿を見て「余り紙がこんなに喜ばれて使ってもらえたことがうれしく、この取組を継続したい」と話されていました。

登美丘西こども園は、自然の生態系が見られるビオトープや菜園、野菜くずから肥料を作るコンポストを園庭に作っています。食べることは命をいただくことであり、食卓に上がるまでに色々な人が関わっていることを、自らの体験をとおして教育しています。余り紙が捨てられてしまうことについて園児からは「もったいない」「木がかわいそう」という声があがりました。提供を受けた余り紙は、園児たちの創造力により「住み続けたいまち」に生まれ変わりました。

感謝の手紙をもらい
余り紙が捨てられない宝物になりました



羽車の皆さん



将来、住みよい地球であるためにも環境や人にやさしく育ってほしいです



登美丘西こども園の先生たち

●思いやりのある買い物で変わる世界「エシカル消費」をご紹介します

エシカル(倫理的)消費って何?

人や社会、環境、地域に配慮したものやサービスを選んで消費することです。何を買うのが正解というものではなく、何も考えず大量に買い物をしたり、簡単に捨ててしまったりせず、買い物がどのような影響を与えるのかを、一度考えてから行動することが大切です。

人や社会に配慮した消費

- フェアトレード(※)商品の購入
- 福祉作業所などで作られた商品の購入
- 寄附付き商品の購入



※開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に取引し、貧困地域の労働者の生活向上をめざす取組

お買い物で世界をより良くしませんか

私たちが買い物で手に入れるものは、どこかで誰かが作り、運んでくれたものです。普段意識しない商品の向こう側では、社会や環境に負担を与える生産や廃棄が行われていることがあります。



私たちの買い物が、食品ロスの問題や地球温暖化などの環境問題、途上国の貧困や児童労働などの社会的課題と深く関わっています。

人や社会、環境に優しいものが選ばれば、企業は人や社会、環境に優しい商品やサービスの提供を拡大します。地元のもの、被災地のものが選ばれば、地域活性化や被災地復興の応援になります。

☎SDGs推進プラットフォーム専用ダイヤル(☎340-2179)か
資源循環推進課(☎228-7479 FAX228-7063)

環境に配慮した消費

- エコ商品やリサイクル商品などの購入
- 資源保護の認証がある商品の購入
- ごみを減らす
- 自然エネルギーの利用



地域に配慮した消費

- 地産地消
- 地元のお店や商店街での買い物
- 被災地商品の購入
- 伝統を大切に商品購入



ざがいつこ

みんなが平和

福泉小学校6年

岡重晴大

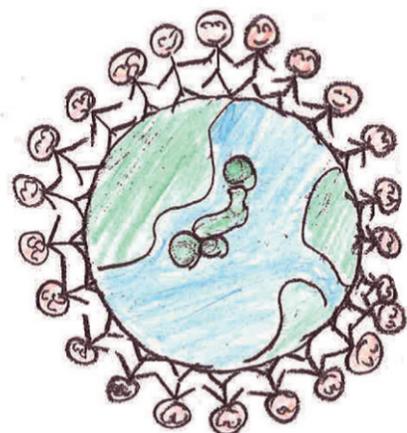
(おかしげ はると)

今はみんな平和
みんなみんな平和

でもね世界の中ではね
食べ物がない
住む所がない
お金がない
こまっている人がいる。

でもね
ほかの人が助けてくれている。
「ありがとう うれしいよ」
と、みんなうれしい気持ち。

それでも助けられない人がいる。
いつかは いつかは
きっと助けるからね。



(絵・岡重さん)